

第4期 令和元(2019)年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第3回全体会 議事概要

日 時 2019年10月3日(木) 14:00~16:00

場 所 新宿区役所本庁舎 地下1階 11会議室

出席委員 毛受委員、稲葉委員、小林委員、郭委員、長谷部委員、田中委員、岩澤委員、申委員、張委員、金(勲)委員、奥田委員、センブ委員、ドゥラ委員、朴委員、鈴木委員、栗原委員、金(朋)委員、盛委員、李(承)委員、那波委員、國谷委員 21名

欠席委員 李(香)委員、パウデル委員、江副委員、安藤委員、ディン・マイ委員、本多委員、平野委員、植木委員、伊藤委員、井上委員、内田委員 11名

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) しんじゅく多文化共生プラザの機能のうち、日本語学習機能について

事務局から説明があった。その後、委員からご意見をいただいた。

- ・ スポーツセンターなどで行われているヨガ、ストレッチなどを、日本語初心者の方でも参加できるようにしたり、日本語のサポートを付けたりすると、既存の事業を活用して、日本語を学ぶ目的がはっきりしない人に対するアプローチができる。
- ・ 日本語を学ぶ目的は人によって違うので、まず話をしっかり聞くことが大事。そのうえで、一人ひとりのニーズを考慮して、プロの日本語指導の先生に依頼したり、通訳の助手を付けたりして、本人の希望に沿った日本語教室にしていくことで、最後まで参加してくれるようになる。
- ・ いろいろな国の人たちが、自分の国の人たちのための日本語教室やっている。そういう教室を把握して、プラザが場所を貸す、講師を手配するなどの支援をするべき。また日本語教室の広報も母国語のコミュニティを通じて行うことが有効。
- ・ 日本語を使いながら料理することなど、楽しみながら日本語を学び、また日本の習慣なども学べる取り組みなどがあると行く気が起きると思う。
- ・ ホームページで日本語教室を紹介する際に、目的や曜日、レベル、生活上の日本語か仕事で使う日本語かなど、参加したい人が自分の目的に合った日本語教室を探せるようにすると良い。
- ・ 行政が区民に対して実施する日本語学習は誰を対象にするべきなのか、どのレベルを教えるべきなのかを話し合うことで、結果として、新宿区の日本語教室のあるべき姿が出てくると思う。

(2) しんじゅく多文化共生プラザの機能のうち、イベントスペース機能について

事務局から説明があった。その後、委員からご意見をいただいた。

- ・ イベントで興味のある人を集めるのは、結構難易度が高い。参加する動機は、楽しみを見出してい

るか、必要があるかのどちらかである。プラザに人を呼ぶには、後者の「必要がある人」が対象となる。地域のそれぞれの国の、ある程度人をまとめられる人を集めて会議を設けるのは、堅いけれども、必要がある人とその人に紐づいている人たちがくる場になる可能性がある。

- ・ コミュニティの人たちの話を聞くことが大事。プラザで「コミュニティの人たちの話を聞きたい」、「各団体の人たちに集まってもらおう」、「一緒にやろう」と言ったら本当にやりたい人たちが来ると思う。一緒に何かをやったり話を聞いたりすることが大切である。
- ・ プラザでイベントをやるとしたら例えば3つくらい課題を設定してはどうか。日本の子どもたちに対して世界に興味を持ってもらおうという課題、成人の外国人に対して日本の文化を知ってもらおうという課題、そして日本人と外国人の成人がもっと交流できるようにしようという課題など。「こういう課題に対してアプローチしていきたい」、「無料で部屋を貸すし必要な経費や教材費、交通費くらいはサポートできます」といったメッセージを出せば、協力してくれるところも多くなると思う。こうしたことを定期的にやり、フェイスブックやツイッターなどで発信することで雰囲気も変わってくるのではないかな。
- ・ 楽しい企画の出口に課題解決になるものがつながっているとよい。例えば、防災の楽しいイベントがあって、楽しんでかつ防災の知識が身につくようなものなど。また、同じような活動をしている団体が集まってワークショップをやり、共通の課題を見つけ、その課題をテーマにイベントをやる時、人も集まってくるし中身も濃いものになると思う。
- ・ プラザのイベントスペースとハイジア1階のロビー、そしてハイジアの前にある大久保公園を一体として、土日の2日間もしくは一週間のイベントをやればかなりのことができるのではないかな。プラザのスペースだけで何かイベントを考えるのは難しい。
- ・ スペースの問題というのは確かにある。実際、新宿未来創造財団は、プラザの多目的スペースに限らず区内の別の場所でも事業を展開しているし、そうあるべきだと考える。
- ・ そもそもプラザの多目的スペースで行われるイベントを増やすのかどうかがポイントである。多文化共生に関連するイベントはプラザ以外でも結構あるし、稼働率も日本語教室を中心として、6、7割となっている。立地もふらっと立ち寄る場所として考えるのは難しい。プラザでの区の主催行事を増やすためにどうするかということではなく、目的意識をもった人たちが使うという考え方が良いのではないかな。様々な活動をしている団体をサポートすることも、プラザの一つの役割である。無料で使える会議室というのは魅力的でもあるし。

また、プラザでは「何月何日にこういう催しがある」ということをまとめて見られるようなホームページを作ってほしい。

- ・ イベントは、参加することで得られるメリットやインセンティブがとても重要である。特に学生にとっては、日ごろアルバイトで大変なので、この点が大事になる。立地も、プラザまで来るのは大変

だけれども、身近な地域センターであれば、気軽に参加できる可能性がある。

- プラザの多目的スペースは日本語教室で多く使っていて、スペース的にも広くない。また11階にあるのでふらりと来る場所でもない。一方、身近な地域センターなどでイベントがあれば参加しやすい。必ずしもプラザで何かをやることにこだわらずに、地域センターなどでイベントをやる際のある種のコーディネーター的な役割など、他の施設との連携も含めてプラザの機能を考えていくと、今までとは違う展開ができると思う。
- しんじゅく多文化共生プラザという場所だけで考えると難しいけれども、地域全体で考えるとできることが広がってくる。例えば、今開催されているラグビーワールドカップを外国人と日本人が一緒に観戦できたら楽しい、などと考えたりもする。また、プラザには様々な情報が集約されている、プラザに行けば地域の中で展開されているイベントが一括してわかるというあり方も良い。
- 初めて日本に来た時にオリエンテーションを受けた場所は鮮明な記憶となって残っている。そこで、こうした人が新宿区に転入届を出しに来た時にプラザのオリエンテーションを案内して、来てもらうことで、日本にいる限りはプラザを忘れないでいてもらえるように思う。また、オリエンテーションの際に、生活に役立つ情報とともにイベントを紹介すれば、参加してもらえるのではないかな。  
また、プラザの広報に関し、ホームページを作ることは必ずお願いしたい。同時に、場所について、10年前の議論でも、もっと人の往来が多い1階に移転できないかという意見が多かった。今後、移転できることになった時には、しっかり考えてもらいたい。
- プラザでやるイベントについての意見だが、インセンティブという観点から、例えば1月は、ネパール映画、2月はベトナム映画などと連続でやる映画祭や、日本で成功している人のトークイベント、特定技能に対する外国人の関心が高いことから外国人に対するビザ関連のセミナーなどを開催すると良い。
- 新宿に住んでいるネパール人は、毎週イベントや集まり、会議をしており、集まるのが好きである。そういうイベントに貸せると良い。また、着物やドレスを着て新宿のまちを歩くというようなイベントだと外国人は集まってくると考える。学生も、授業もアルバイトもない時間があるだろうから、そうしたときにオリエンテーションをやったり日本のルールを説明したりすることができるのではないかな。外国人は在留資格、学生なら進学相談などに興味があるので、そうしたことに関係するイベントができると良い。

### (3) 次回の日程

事務局から次回会議の日程（2019年11月15日）について説明があった。

## 4 閉会